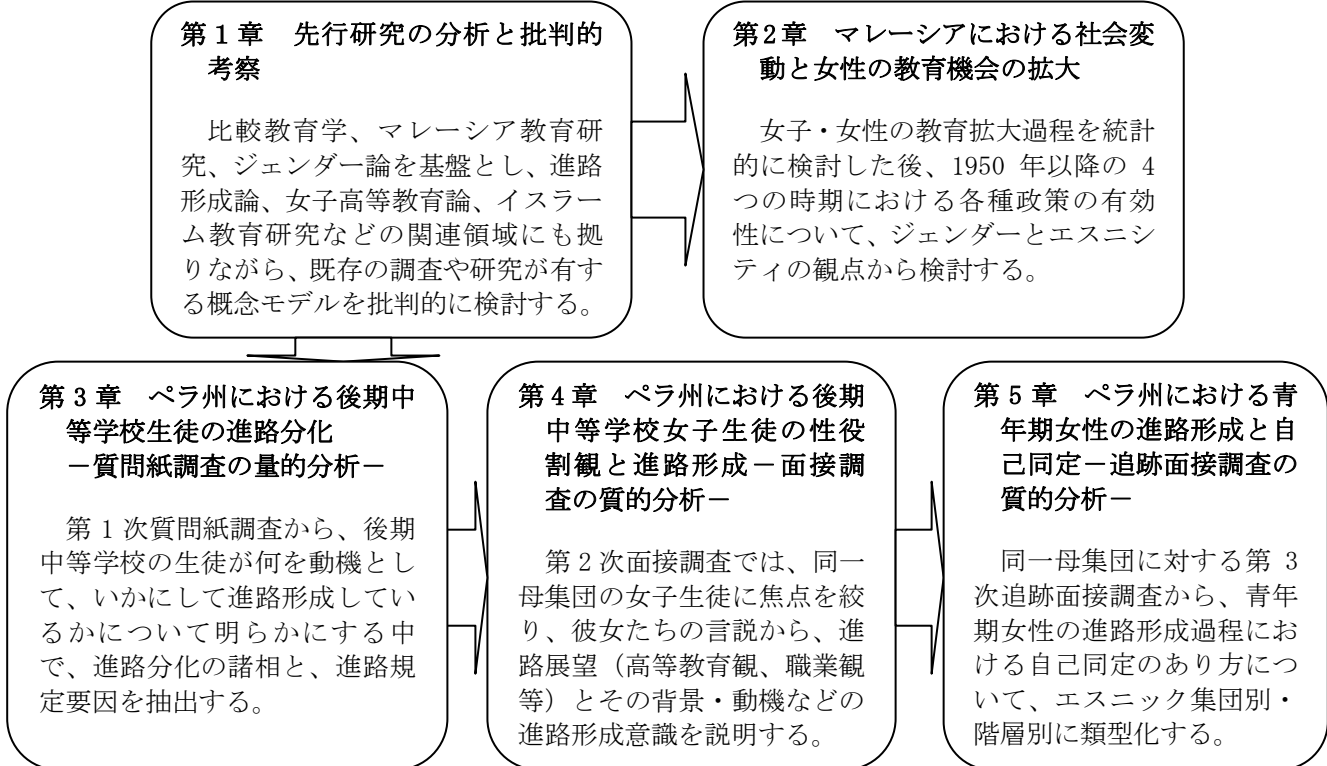


論文の構成 マレーシアにおける社会変動と青年期女性の進路形成 —ジェンダーとエスニシティを分析視点として—

序章 研究の目的と方法	
1. 問題の所在	①途上国の中で、マレーシアは、例外的に女子・女性の教育機会が拡大してきた。 ②マレーシアにおいて、最も深刻な問題として注目されてきたのは、エスニック集団間の教育格差の問題である。 ③そのため、女子・女性の教育機会の拡大および拡充の要因や背景について、十分に検討されてこなかった。
2. 研究の目的	あらゆる教育段階で男女間の教育格差を解消してきたマレーシアを事例とし、社会変動と青年期女性の進路形成の諸相から、女子・女性の教育機会の拡大および拡充の過程と構造についてとらえなおすことである。
3. 研究の意義	①ジェンダーとエスニシティの観点から、マレーシアにおける女子・女性の教育拡大の背景について検討することは、マレーシアの教育問題を新たな側面から考察することにつながる。 ②それとともに、欧米先進国型の概念モデルに基づき分析されてきた男女間教育格差の問題の克服に異なった視座を提供する。
4. 研究の方法と枠組み	①先行研究の分析と批判的考察 ②統計・制度・政策分析(教育政策文書、マレーシア計画、女性関連政策) —女性の教育機会の拡大に対する各種政策の有効性と限界性 (マクロ次元) ③実地調査(第1次質問紙調査、第2次面接調査、第3次追跡面接調査) —青年期女性の進路形成と自己同定 (ミクロ次元)



終章 結論、研究の意義と課題
1. 結論
2. 研究の意義
3. 残された課題と展望